

会議結果報告書

1. 会議名 平成30年度 第5回 印西市環境推進市民会議
2. 日時 平成30年9月14日（金） 9：30～11：30
3. 場所 印西市役所25会議室
4. 出席委員：岩井委員、上田委員、小山委員、白川委員、根本委員、松崎委員
事務局：黒田、海老原（環境保全課）
5. 傍聴者 0名
6. 配布資料
 - ・会議次第、会議席次表
 - ・環境推進市民会議での検討事項（グループ討議 発表内容）

7. 内容

(1) 開 会

(2) 議事

①中央駅前交流館まつりについて

副会長 中央駅前交流館より土日の両日、参加できるかの問い合わせがあった。

日曜日の来場者は比較的少ない。

交流館まつりは交流館の利用団体が主体となって開催するまつりとして発足した。市民会議も長い間参加しており、始めは2日間参加していた。

委 員 2日間参加するには人数が少ない。

岩井委員と小山委員は「だんごまつり」に参加する。

副会長 例年どおり土曜日、1日のみの参加とする。

市 交流館には市の方から土曜日のみの参加とすることを報告する。

委 員 交流館まつり等のイベントに参加することで、環境に対する市民の意見が直接聞けることは貴重な機会だと思う。

環境フェスタは他市の来場者が多かったが、交流館まつりについては市内に住む近隣住民が来場者となる。

クイズや啓発内容については刷新した方が良い。

クイズの内容については今話題の事や子供向けの内容が良いと思う。

副会長 クイズの内容および啓発内容について意見を伺いたい。

委 員 プラ製ストローの廃止が世界的な話題になっている。

マイバックの普及、促進。

北海道で大地震があったので、災害と環境をテーマにして検討したい。

副会長 災害と環境をテーマにクイズおよび啓発内容を検討する。

委員 ニュータウンは地盤が固いと言われているが、北海道の震源地も活断層から離れていた。活断層が見つかっていないだけ。貝層が地表に出ている場所もあり、地盤が隆起している。

自宅に太陽光発電を導入しているが、太陽光さえあれば発電できる。停電の際は直接、電気を使うこともできる。蓄電池は高価で、10年程で使用できなくなるから設置しなかった。災害時を想定して太陽光発電を導入した。水も2000ストックしている。

太陽光発電と受給電設備があれば電気自動車に蓄電ができる。

買取価格を見直す方針があり、買取価格が下がれば普及が減速する。

災害時はメガソーラー施設を利用させて欲しい。

最近の豪雨災害では排水路や河川の浚渫不足やつまり等、メンテナンスができていないことも災害が拡大する要因の一つとなっている。

滝野地区には盛土している場所もある。

住んでいる場所が昔はどのような地形だったのか把握しておく必要がある。

最近ではハザードマップの精度が高い。ただ、関心を持たない人が多いことが問題。

東電は災害時に一定の電力が確保できなくなった場合、送電をコントロールし重要な拠点の送電を継続する。印西市は重要な拠点と判断され、東日本大震災の際は計画停電の区域にはならなかった。

印西市の天然資源は地下水である。地下水の利用が少ないため水位が上がっている。八ッ場ダムの工事費の負担から将来的に水道金上がる。地下水を有効活用するべき。

雨水タンクの導入に補助金を出すべき。

ペットボトルに水を貯めておくだけでも、災害時には役に立つ。

副会長 中央駅前交流館まつりの啓発内容として、

- ・地震直後の状況を知らせる
- ・自然災害から身を守る対策
- ・ブラックアウトに備える
- ・普段から節電を心掛ける
- ・エコ生活が災害対策につながり、エコに取り組むツールとして環境家計簿を啓発する。

という内容で検討する。

委員 国の災害対策を調べる。

どんな防災対策をしているのか来場者に書いてもらい、ボードに貼っていく。

エコバックの配布は家族で1つとする。
子供はスタンプラリーのみ。

※ 議題（2）の「市民会議での検討事項について」は時間の都合上、省略。

平成30年度 第5回 印西市環境推進市民会議の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

平成30年10月19日

委員 岩井 邦夫

委員 上田 一生